

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	74	学校名	下館工業高等学校						課程	全日制		学校長名	田中 一豪			
教頭名	石川 肇											事務(室)長名	松本 敏秀			
教職員数	教諭	48	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	11	事務職員	4	技術職員等	4	計	77
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数			
	機械科		66	3	52	3	73	1			191	7	6			
	電気科				26	1	30	0			56	1	2			
	建設工学科		30	4	26	9	31	5			87	18	3			
	電子科				69	6	63	3			132	9	4			
電気・電子科		72	8							72	8	2				

2 目指す学校像

- 1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。
- 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。
- 3 進学や就職など生徒の希望する進路の実現を図り、地域から信頼される進路選択肢の広い学校。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材。 ②工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材。
教育課程の編成及び実施に関する方針	①生徒一人一人の学力の向上を図るために、授業や実習を工夫・改善する。

別紙様式 1 (高)

(カリキュラム・ポリシー)	<p>②専門性を高めるために、専門的な知識・技術の定着を図り、資格取得の実績を伸ばす。</p> <p>③進路希望を実現するために、生徒の能力や適性に応じた進路指導体制を充実する。</p> <p>④基本的な生活習慣の確立に努め、高校生らしい態度や行動を育成する。</p> <p>⑤生徒の心身の成長を促すために、特別活動の充実を図り、安心・安全な環境づくりを進める。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>①工業に関する分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。</p> <p>②自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。</p> <p>③学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。</p>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	学校評価生徒アンケートでは、授業がわかりやすい、先生は教え方を工夫しているとの回答が約 90%だが、意欲的に勉強しているとの回答は 65%である。資格合格率も低下した。	興味を高める授業実践や個別指導、生徒の資格取得の重要性に対する認識を高める必要がある。資格試験の指導体制も改善を図る必要がある。
進路指導	進学希望者は 4 割弱で、その約 3 割が 4 年制大学志望であり、いずれも昨年度より減少した。就職を希望する生徒は、主に技能・技術職の分野へ確実に就職している。	多様な進路希望に対応できる指導体制の充実を図る必要がある。確かな学力と技能・技術を評価されての進路実現を図る必要がある。
生徒指導	大部分の生徒は社会の一員としての責任やマナーを身につけており、服装等の校則違反者は全体的に減少傾向にあるが、一部に規範意識に対する認識の甘さが見られる。	全職員による根本的・継続的な指導により、意識改革を図る必要がある。挨拶・言葉遣いをきちんとできるようにする必要がある。
特別活動	運動部を中心に活発な活動を展開している。毎年複数の部で全国・関東大会に出場しており、公立学校の中では総合的に上位の成績を上げている。	特色ある学校づくりの観点から工業高校特有の活動等の活性化に取り組む必要がある。自主的な活動を重視する必要がある。
働き方改革	校務分掌における役割分担が適切に行われており、一部の教職員に仕事が偏るような事態は発生していない。超過勤務となっている教職員も不在である。	働き方改革に対する教職員の意識を高め、全ての教職員が豊かな教職員生活を送れるよう、業務分担の配分に配慮する必要がある。

5 中期的目標

1 生徒一人一人の学力の向上を図るために、授業や実習の工夫・改善に努める。
2 専門性を高めるために、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、資格取得の実績を伸ばす。
3 進路希望を実現するために、生徒の能力や適性に合った進路指導体制の充実を図る。
4 基本的生活習慣の確立に努め、高校生らしい態度や行動の育成を図る。
5 生徒の心身の成長を促すために、特別活動の充実を図り、安心・安全な環境づくりを進める。
6 学校の取組を積極的に発信することにより、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域社会との信頼関係づくりに努める。
7 豊かな教職員生活の実現を目指し、働き方改革に関するPDCAサイクルの確立を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力向上と個に応じた学習指導の徹底 (学習指導・進路指導)	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 (2) 学習意欲の向上を図るとともに、外部試験の評価を活用してさらなる能力開発を図る。
2 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成 (挨拶・公共の場でのマナー)	(3) 生徒一人ひとりの個性を活かし、確かな生活目標を持たせ、支援する。 (4) 家庭や地域・関係機関との連携を深め、非行や問題行動の未然防止を図る。
3 地域と連携した学校づくりの推進 (開かれた学校づくり・近隣高校との連携)	(5) 近隣実業高校(農業・商業)と連携し、地域のコンソーシアムの設立を目指す。 (6) 学校広報力の強化を目指し、Webページの充実、ポスター等の制作を行う。
4 生徒の主体的な活動の充実 (部活動・ボランティア活動)	(7) 特別活動の充実を図り、生徒の自主的・実践的態度の育成に努める。 (8) 部活動のさらなる充実と生徒ケアを図り、人間性向上と健康・体力増進を図る。
5 安全教育の徹底 (防災安全・授業中の事故防止)	(9) 地元警察署等と連携し、交通安全指導等の徹底を図る。 (10) 実技・実習等における5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底を図る。
6 働き方改革の推進	(11) 教職員の同僚性、協働性を高め、業務分担の平準化と業務の効率化を図る。 (12) 勤務時間や業務内容等の適正化を図るためのPDCAサイクルの確立を図る。
7 キャリアパスポートの活用	(13) 生徒が自らのキャリア形成を見通し、将来の生き方を考える活動を推進する。 (14) 生徒が自らの学習状況を振り返り、自己の変容や成長への気づきを促す。

別紙様式 1 (高)

8 授業改善の推進	(15) ICTを積極的に活用し、授業改善を図る。(生徒の授業満足度 \geq 75% : KPI)。
-----------	---